

人生の書『共産主義における「左翼」小児病』に学ぶ

第3回 四国ブロック

正しい妥協は汗をかいた上での妥協である

最後の言葉とは

司会（東口）：第4章に入る前に、前回第2章で質問がありました「最後の言葉とは何を指すのか」について、学長から説明をしてもらいましょう。須藤・12ページ及び13ページの「最後の言葉」について説明いたします。

この問題については歴史的に捉えな  
いと理解が難しい内容となります。資本主義が発展していくなか、1900年までは自由主義的な経済でした。しかし、1900年から1903年にヨーロッパを中心にして世界恐慌が起き、そのなかで、独占資本が生まれ、帝国

主義時代に入ります。ロシアはレーニンを中心にして社会主義運動が活発になります。前回学んだように1903年にはマルクス主義の党綱領がつけられます。いわゆるボリシェヴィズムです。そのなかで、レーニン曰く

「我々は最新の帝国主義国の経済や政治、文化や社会を熱心に研究して学んだ。そしてマルクス主義的な党綱領ができた。」と。この最新の帝国主義国の経済や文化等を徹底的に学んだというのが、まさに「最後の言葉」だということですよ。

「最後の言葉」と言えば、『共産党宣

言』で「万国の労働者、団結せよ」という言葉がありますが、この時代の帝国主義を学んでロシア共産党はマルクス主義の党綱領を得たというのが最も重要なところで、そういう理解でいいと思います。

古典を読む場合にこういった歴史的な視点を持つこと、部分的ではなくて立体的に歴史を見るという意識を持つとより理解が進むかと思えます。

司会（東口）：ありがとうございます。前回質問を受けた第2章の「最後の言葉」について丁寧な説明を受けました。それでは早速第4章の学習に入ります。

## ◆ みんなの学習講座

第4章 ポリシエヴィズムは労働運動内部のどのような敵との闘争のなかで、成長し、つよくなり、きたえられたか？

### (レポート要旨)

・ポリシエヴィズムは今もまだ日和見主義との闘争。また、無政府主義と同様に資本主義国家では社会現象である小ブルジョアの革命性という敵との長年の闘争によって鍛えられてきた。

・ポリシエヴィズムと党内の「左翼」との闘争が大規模に行われたのは1908年の反動「議会」に参加すべきかどうか、また、反動的な法律により合法とされている労働組合に参加すべきかどうかの論争であった。「左翼」は過去の成功経歴を基にポイコットを主張したが、現在の客観情勢を分析した上で対応すべきと対抗。区別された「妥協」は必要である。

司会(東口)：第4章のレポートは

高知県協の池内さんです。

この章を要約すると、第一には日和見主義という敵とのたたかい。そしてそれとは別に小ブルジョアの革命性と長年のたたかひのなかでポリシエヴィズムは鍛えられたとあります。

ただし、日和見主義については長年の国際的な主な敵であるのに対し、この小ブルジョアの革命性という敵は、一貫したプロレタリア的階級闘争をやりとおせるための条件と要求からはそれているということで、事情が違つと書かれています。この詳しい内容について様々歴史も交えながら述べられており、運動のなかで生まれる妥協という問題について、良いものもあれば悪いものもあるという議論に繋がります。では、まずレポートの方から疑問点等を提起いただければと思います。

池内：須藤字長も先ほど言われましたが、古典を読む時には、その歴史的事情がわからないと理解が難しくなりま

すので、今回この時代の年表をつけてレポートをしました。日和見主義という言葉が出てきますが、ではどの政党がそうなつていったのか、よく出てくるエス・エル、元はナロードニキ派で、農民大衆による運動であり、マルクス主義に則つた社会発展法則に基づいた革命運動ではないということ。後の方にブルジョア的な政党の話も出てきますが、それらとのたたかひの内容が書かれていると思います。

また、ポリシエヴィキ内部での妥協の話も出てきます。左派が反対したということですが、どこがどう考え方として違つのかを議論するのも、私たちの運動を長年していくなかでの判断を学ぶ意味で良いかと思ひます。

### 小ブルジョアの性格

須藤：小ブルジョアの人たちがなぜ左翼的になるのかというのを押さえてお



立ち上がってレポートする気合十分の池内さん

くのが良いと思います。彼らはまず生産手段を自身で有しているというのがポイントです。中小企業の方たち、また農民も自身で土地を持っています。資本主義が発展すればするほど、彼らの立ち位置が失われていきます。労働者の立場への転落ですね。そして、自分の立場が危うくなると態度を変えて激しい言葉で資本家を追及していくのです。ただ左派的なことを言いながら

もその意味は、あくまで自身の立ち位置を維持しよう、元に戻そうということからです。ですので、労働者のたかいかを前にすすめていくというよりは、むしろ後ろ向きなたたかいかであると言えます。

司会（東口）…テキストで言うと22ページ辺りです。生産手段を持つ小ブルジョアは、常に自身が労働者側に落ちる不安を持っており、左翼的に過激な行動を起こすが、いつでも向こうに寝返る可能性がある。元の自分の立場を取り戻したり、それを維持したりするために行動を起こすということですね。つまり労働者とともに行動を起こすことはあるが、真の革命家であるとは言えないということです。

### 情勢に合わせた判断が重要

池内…25ページから26ページで、反動的な議会、反動的な法律の下での合

法的な労働組合に参加すべきかどうかという問題が出てきます。ただ労働組合に入るだけでなく、合法的労働組合と非合法的労働組合を上手く結合させて、まずは一つの目標である社会主義革命を成就するというところにどうつなげていくかを常に考えていくべきだということが書かれています。

須藤…ここではまず議会のことについて書かれています。1905年の議会のポイコットは正しかったと。なぜかと言うと、当時は第一次ロシア革命で盛り上がっていた時期で、ツァーリ皇帝のやっていることは明らかにおかしいと誰もが思っているために、議会をポイコットし、議会外のたたかいかでも上手くいった。ところが、1906年頃から革命が潰されて反動期に入った時にも以前の成功を基に情勢を分析することなく、同じように議会をポイコットするのは間違いだと言っています。状況が違えば対応も当然変わってくる。

## ◆ みんなの学習講座

情勢を正しく見ることの必要性をレーニンは指摘したのです。

池内…後の妥協の部分とも関係しますが、1918年のブレスト講和でもレーニンの判断が見られました。

当時は第一次世界大戦中ですが、生まれたばかりのソビエト政権を維持・存続し革命を継続するために、大規模な領土を失うなど、圧倒的に不利な条件でも、エス・エル等の左派の反対を押し切り、ドイツ等同盟国との単独講和にふみ切ったのです。左派による、妥協は認めず戦争を継続させるべきという対立のなかで、社会主義体制を守るための妥協を決断しました。

兼廣…いろいろとレーニンが判断をして正しく導いたからロシア革命は成功したのだろうかと思いますが、疑問なのは彼がその時々道筋を示すための判断をする時の基準と言いますか、何を基に正しい判断を下してきたのかかわかれば知りたいのですが。

池内…十月革命の時はレーニンの思いよりも早くすすみましたよね。いくらレーニンでも見通せないこともあったのでしようし、いざ自身の思いとは違うふうには状況が動いても、革命によりすすむのならといってそちらを優先させたという判断は見事です。とにかく

目標だけを見据えてその時その時の状況を見てより良い方向に頭を切り替えていったのではないかと思います。マルクスも同様に最初は、パリの蜂起には反対をしていましたが、時代をすすめるためにそれを後押ししましたね。

須藤…端的に言えば「階級及び階級闘争」です。この頃はロシアには農民が大半でした。それでも社会変革をするのは労働者階級なのだという自覚です。労働者階級がたたくためにはその他の階級も一緒でないといけない。そしてそれを指導するのは政党であるという。そのことははっきりしているのです。その核がしっかりとしているから

こそ、その時々判断が正しくできるといふことです。

司会(東口)…前回第2章で、どのような条件があつてブルジョアジーを倒して、全社会改造を行なう党の実力を実際に備えた革命となるのかとして、第一にプロレタリアート前衛の階級意識等々。第二に広範な……プロレタリア・非プロレタリア勤労大衆と結びついて接近し、ある程度彼らとつけ合う脳力。第三に政治指導の正しさによってということ、政治的戦略の正しさがすぐに生まれるのではなく、長い間の苦勞、色々な経験を積んで決めてつくられるというふうにかかれていましたね。

### 正しい妥協と間違つた妥協とは

司会(東口)…では次に後半の「妥協」について考えていくことにしましょう。

本文では、強盗に襲われた際の妥協

の例が出されてきました。正しい妥協と間違つた妥協があるということ、レポーターはどのように思いますか。

池内・レーニンが重要だとしているのは、第一次世界大戦の手に、第二インターナショナルはバーゼル大会宣言のなかで、万国のプロレタリアが一齐に反帝国主義闘争に立ち上がり、反ブルジョアの声を上げ、国民の世論を動員して戦争反対を謳つており、レーニン率いるボリシエヴィキも、戦争が始まれば、内乱を起こし社会主義革命へ、という流れを想定していました。

しかし、いざ戦争が始まると、当時一番すすんでいたドイツ社会民主党、カウツキーが戦争賛成に回り、各国共産主義政党も同様の立場を取つたことで、第一次世界大戦に突入していきました。このような妥協はダメで、命を張つてやり通す必要があると思ひます。ロシアボリシエヴィキはレーニン指導のもと、エス・エルとともに戦争から

内乱、帝国主義打倒へとやり抜き、共産主義体制を打ち立てました。

須藤：第二インターナショナルのメンバーがなぜ崩れていったのかですが、第一次世界大戦が起きた時に、それまではみんな社会主義者のような顔をしていましたが、いざ戦争になった時に自国の軍事公債発行に賛成、つまり戦争に加担してしまふのです。万国の労働者団結せよ！ というのがマルクス主義であり、インターナショナルの考へ方のはずですが、自称社会主義者が皆自国防衛に走つてしまふのです。

これはロシアメンシエヴィキに限らずフランスやベルギー、イギリスも同様の道を歩みました。自称社会主義者は戦争になれば民族主義的社会排外主義に陥つてしまふのです。こうして第二インターナショナルは崩壊してしまふのです。このような妥協は間違ひであると言えます。一方でボリシエヴィキは一貫して戦争反対を訴えました。

肝心なめの時に正しい立場を取れる人が真の社会主義者であるということです。

### 実際の妥協の場面とは

大西：組織に確固たる規律と理論があれば、正しい妥協ができると以前に学びました。この事例が当てはまるかどうかはわかりませんが、現在三好市では、新庁舎建設後に労働組合の事務所は庁舎内に設置させないと市長が明言しています。

当然向こう側からしても設置の義務はなく、行政財産なので一部区画を利用させる、させないの権限は市長にあります。現在の事務所は庁舎内にありますし、これまでの当局と労働組合の紳士的な関係性のなかでやってきたにも関わらず、なぜ今後はそれができないのかと。

当局からは、本庁舎には無理だが、

## ◆ みんなの学習講座

市内の他の庁舎の空きスペースに置くことは可能だとする提案を出されていますが、労働組合としてのこだわりとしては今まで通り本庁舎内に設置させるという思いがあります。

三木：組合員はどんな意見ですか。

大西：はつきりと分かれています。労働組合の締め出しと同じであり、断固闘うべきという意見もあれば、普段運動に参加しない、また関心がない、事務所に用事がないという方にはそれが問題であるとは認識できておらず、どちらでも良いという意見も多く、一枚岩で反対とは言えない状況です。

特に私は外部の西祖谷支所にしやにいるので、組合員からしたら組合事務所に出入りすることもほほありませんし、ピンとこないのが正直なところですね。

三木：組合、そして組合事務所が身近なものではないと。

大西：そうです。本庁舎のどこに事務所があるのかも知らない組合員もいま

す。組合としての事務的なことができ、維持される限りは特に場所にはこだわりはないということです。

須藤：よくある話で、庁舎が切り替わるなどの際には、それを機会に組合を排除しようとする動きは出てきますね。

それを組合員がどう捉えるかが問題です。向こう側もどう反応するかを試してみているのかもしれない。

東口：揺さぶりによる分断攻撃ですね。須藤：断固反対と言われれば少しは考えるけども、逆にすんなりいけば、この際組合を排除できるので向こうとしては嬉しいでしょう。

経験から言えば、高松郵便局で当時の組合は全通ですが、ある時全郵政というのができました。すると全通の組合事務所の隣の空いている会議室にすぐ全郵政の組合事務所ができました。しかし、郵政ユニオンは労働委員会でもたたかいましたが、未だに事務所はできておりません。結局たたかわない

労働組合は置いておいても怖くないけれども、たたかう労働組合は置きたくないのです。本質は何かというと、相手の思想性を当局は見ているということとです。今三好市職労連も試されているということとです。

東口：予定されていたのは新庁舎の2階で、図面上は福利厚生室という表記でしたが、市長が聞いてなかったという理由でそういう態度に出ています。

高開：自民党系や反動勢力の圧力があるのでしょうね。

大西：組合員に周知・議論をして当局と対峙した結果、場所が変わるといふ妥協は仕方ないことだとしても、このまま組合員の声も十分に拾わず執行部だけで協議して何もせずに妥協して追い出されるのは間違いであるということですね。

司会（東口）：ありがとうございまして。次号は第5章を学習します。